



ショートコメント

★★★

Data 2022-84

監督・脚本・撮影・編集：ヴァレンチン・ヴァシャノヴィチ

出演：ロマン・ルーツキー／ニカ・ミスリツカ／ナディア・レフチェンコ／アンドリー・ルィマルーク／イゴール・シユルガ

# リフレクション

2021年/ウクライナ映画  
配給：アルバトロス・フィルム/127分

2022 (令和4) 年7月14日鑑賞

シネ・リーブル梅田

## 👁️👁️ みどころ

2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻とタイミングを合わせるかのように、ヴァレンチン・ヴァシャノヴィチ監督の『アトランティス』（19年）と本作が同時公開！前者は戦争終結後の2025年、本作は戦争が始まった2014年を描くものだが、その対比は如何に？

ナチス・ドイツのポーランド侵攻は1939年9月1日で、ロシアのウクライナ侵攻は2022年2月24日。日本人はみんなそう思っているが、本作を観れば、それが誤りであることがよくわかる。しかし、それ以外に本作から学べるものは・・・？私は期待外れ感が強かったが、さて、あなたは？

—— \* —— \* —— \* —— \* —— \* —— \* —— \* —— \* —— \* —— \* ——

◆『アトランティス』（19年）は、ウクライナ東部ドネツク州の都市マウリポリにある巨大施設・アゾフスターリ製鉄所の攻防戦をリアルに描くもの、ではなかった。しかし、戦後1年経った2025年の“あの州”“あの製鉄所”を舞台とした PTSD を抱えながら死んだように生きている主人公（元兵士）の物語は、それなりに感動的だった。

連日 TV 報道されるウクライナ情勢の中、同作に連続して公開されたのが本作。本作は、ロシアがウクライナに侵攻し、侵略戦争が始まった2014年からの姿を描いたもの、というから、こりゃ必見！

◆本作の主人公は、外科医のセルヒー（ロマン・ルーツキー）。冒頭、12歳になった娘ポリーナ（ニカ・ミスリツカ）の誕生日を祝うために訪れたサバイバルゲームの会場で、別れた妻オルガ（ナディア・レフチェンコ）と彼女の新たなパートナーになった兵士アンドリー（アンドリー・ルィマルーク）との会話の中で、本作の物語の骨格が描かれる。

アンドリーは「1週間休んで戦場に戻るよ」とこともなげに語っていたが、娘から「パパは行かないの？」と問われたセルヒーは、さてどうするの？

◆『アトランティス』では、固定カメラ、長回し撮影の手法が際立っていたが、それは本作も同じ。しかし、一度目はそれで良くて、二度も全く同じ手法を見ると・・・？

本作中盤は、①従軍医師になったセルヒーが戦場での移動中に道に迷い、人民共和国軍の検問所にさまよい込んで捕虜になってしまう物語、②捕虜収容所で、ロシア軍からウクライナ兵への非人道的な拷問が行われる物語、③捕虜として“この世の地獄”を見たセルヒーが、独房で自殺を試みる物語、④ウクライナ兵の遺体を処分する移動火葬車の運転手にセルヒーが取り引きを持ちかけ、アンドリーの遺体をこっそり市外へ運び出す物語、等々が、固定カメラ、長回しの手法で次々とスクリーン上に映し出されていく。しかし、そんな手法のスクリーンをずっと見ていると、いい加減飽きてくるのは仕方がない。そして、その手法は、ラストまで全く同じだから、なおさら・・・。

◆『キネマ旬報』7月下旬号の「REVIEW 日本映画&外国映画」では、本作について星5つ、5つ、4つとした3人の評論家が3人もその手法を絶賛している。ちなみに、『リフレクション』というタイトルは、主人公の部屋の窓ガラスの反射で鳩が激突して死んでしまうところからとられていることがわかるが、それってちょっと作りすぎでは？しかも、その鳩の死骸を茶毘に付しながら、セルヒーとポリーナが人の死について語り合うシーンが登場するが、これもちょっと作りすぎ？そもそも鳩の死骸をどうやって発見したの？

◆私は、本作を見れば、第1に2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻がなぜ起きたのか、第2にウクライナ戦争の出発点はロシアの軍事支援を得た親露派がドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国をつくりウクライナ東部で戦闘が始まった2014年にあったこと、について深く勉強できると思っていた。ところが、本作後半は、アンドリーの不在を寂しがるポリーナを慰めるため、捕虜交換で帰国したセルヒーがさまざまな約束を叶えていくストーリーになっていくので、アレレ。

そのため、乗馬まで習わせることになるのだが、そこでポリーナの落馬事故が起きると、物語はさらにアレレ、ウクライナ戦争とは全く関係のない方向に……。こりゃ一体ナニ？

◆そんな展開の中、あの移動火葬車を運転していた男から、セルヒーの携帯にアンドリーの遺体が発見されたと報告が届くところで本作は終わる。これはすべて、捕虜になっていた時のセルヒーが、彼とアンドリーの遺体について交わっていた“ある密約”に基づくもの。セルヒーは医者でカネ持ちだから、そのカネにまかせて“あの男と交わっていた密約”が実行できたのは結構だが、本作のテーマはそんな遺骨返還(?)にあったの？そんな結末を見ると、私は大きな“期待はずれ感”に襲われたが、さて、あなたは……？

2022(令和4)年7月23日記